
静岡県住まいの文化賞 入賞作品集

静岡県
の住宅

この文化賞は静岡県内に建設された
個性と魅力ある住宅を顕彰するものです。



静岡県住宅振興協議会会長

中山 祐次

(静岡県都市住宅部長)

住まいづくりは、住まい手の家族構成やライフスタイルに基づく住まいに対するイメージを設計者の助言と設計作業により具体化させ、さらに、これを施工者が空間として実現していくものですが、「よりよい住まい」を建築するためには、機能面のみを追求するだけでなく、地域の自然環境や風土、伝統文化に十分配慮することが必要であると考えます。

このような認識のもとに、静岡県住まいの文化賞は、静岡県の住文化の向上と住宅産業及び住宅関連産業の振興を目的として、昭和63年度から地域の特性を生かした個性と魅力ある住宅を顕彰しております。これまでに29点が入賞作品として選ばれましたが、これらの住宅にはそれぞれ特色ある住まいの文化を感じることができます。本書は、受賞した作品の設計趣旨を紹介したもので、すべての内容を網羅したものではありませんが、図面や写真を参考として、その住宅の醸し出す雰囲気味わっていただき、皆様方の今後の住まいづくりや住まい方の御参考としていただければ幸いに存じます。

結びに当たり、静岡県住まいの文化賞の推進と本書の刊行に多大な御協力をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



静岡県住まいの文化賞審査委員長

外山 知徳

(静岡大学教授)

住まいということばは、住み続けること、またはその場所という意味であります。そして住むとは静かにしていること、澄むに通じるのです。ですから単にモノとしての住宅だけでなく、それを取り巻く環境や住み手の生活まで含めて考えなければなりません。したがって住まいというものは十人十色で一般的な評価が難しいものでもあります。しかしまたそれだからこそ、技術的というだけでなく、社会的・歴史的・民俗的・倫理的・美術的・宗教的等々、実に様々な意味を帯び、一つの文化としてそこに存在するのです。

従来、歴史的な結果や社会的な現象としか認識されなかったこれを積極的に産み出す力を、社会的に引き出そうとするのが住まいの文化賞の意義であろうと考えます。これも技術・情報化社会のすう勢でしょう。そこには設計者・施工者はもちろん、居住者も重要な役割と責任を持っているのです。どう造られたかだけでなく、どう住まわれているかも住まいの文化を産み出す重要な力となります。

そしてせっかく受賞しても、それらの情報が広く世間に知れ渡らなければ受賞の効果も半減してしまいます。この度、これまでの入賞作品集が刊行される運びとなったことは、その意味において大変喜ばしいことであります。これが契機となって、さらに一層多くの作品が寄せられ、住まいの文化水準の向上に資することを願ってやみません。

一つの文化として存在

● 目 次

・ 昭和63年度

街の語り部になる家.....	6
永遠の家.....	8
天城型公営住宅.....	10
小林邸.....	12
たつきウッドタウン.....	14
曽根田邸.....	16
モナリザ de たきい	18
椎木邸.....	20

・ 平成元年度

H 邸(浜松市).....	22
H 邸(浜北市).....	24
HILL SIDE-SUN HOME	26
ザ・トライアングル.....	28
タウンハウス和合.....	30
T 邸.....	32

・平成2年度

3½ホールの家.....	34
菊川町公営住宅長池団地.....	36
せせらぎと池のある医院併用住宅.....	38
幸町の町家.....	40
スカイヤード中原.....	42
蒲原町神沢の家.....	44
リバーサイドハウス.....	46

・平成3年度

ROOM IN THE ATRIUM	48
杉山 純邸.....	50
民家再生 小下田の家.....	52
曾根 邑志邸.....	54
大富の家.....	56
東 邸.....	58
星野邸.....	60
The Patio 1909	62



街の語り部になる家

昭和63年度最優秀賞

- ・ 建築主／石川 孝次氏
- ・ 建築場所／浜松市広沢
- ・ 設計／(株)マルモ中村住宅 1 級建築士設計事務所（浜松市西伊場町）
- ・ 施工者／(株)マルモ中村住宅（浜松市西伊場町）
- ・ 規模／木造地下 1 階地上 2 階延べ198㎡
- ・ 完成年／昭和58年



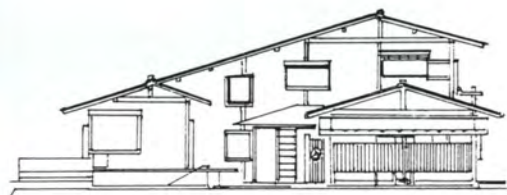
北側〈車庫、老人室〉を見る



食堂南側



居間南側



西立面図

素朴で住み手によく馴染んだ生活空間

◇講 評

住み手の趣味と設計者との調和のとれた協同によって、素朴で住み手によく馴染んだ生活空間を作り出し、完成度の高いデザインとなっている。

◇設計の趣旨

敷地に接する道は、浜松城や普濟寺から、犀ヶ崖、西来院に抜ける「歴史の散歩道」として指定（浜松市）されている一方、通学路として利用されることから、環境との調和を重視。「歴史の散歩道」を歩き、通学する学生たちにとって、「あそこに感じのいい家が建っていた」と思われるような住宅をめざした。

敷地は変形であるうえに高低差があることから、

高低差を利用して、地下には車庫と自転車置場・物置などを配置。

1階は畳敷の居間を中心に、東へ夫婦室、西へ食堂・台所など、北へ和室を配置。居間には掘ごたつが置かれ、家族の生活に密着した場に。

また、2階への階段の途中に書棚を設け、読書好きの家族は、ここで本を読んで2階へあがり、2階ホールを家族のためのスペースとして、また、ある時は書斎として使うなど、さまざまな用途で活用。

2階の子供室は、収納部分を多く取り、また将来独立して部屋がもてるように、3室分の空間を確保。

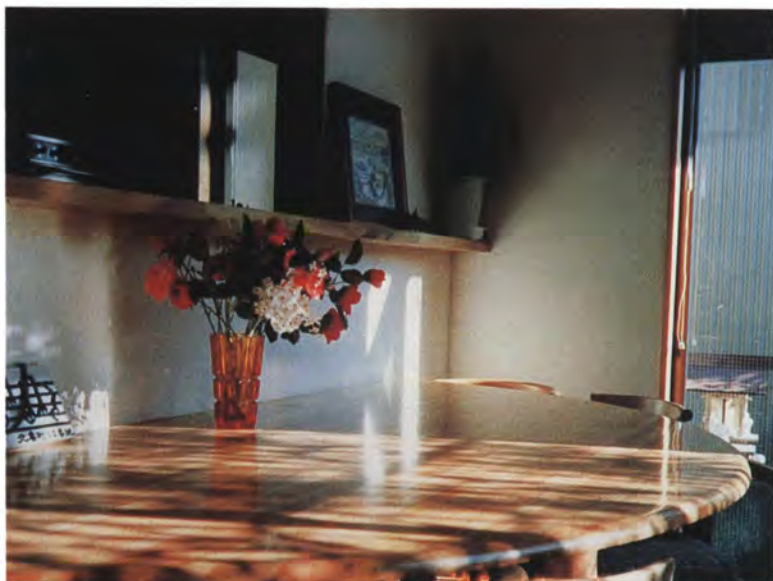
外部に張り出した木製のバルコニーは子供たちによってうまく使用されている。



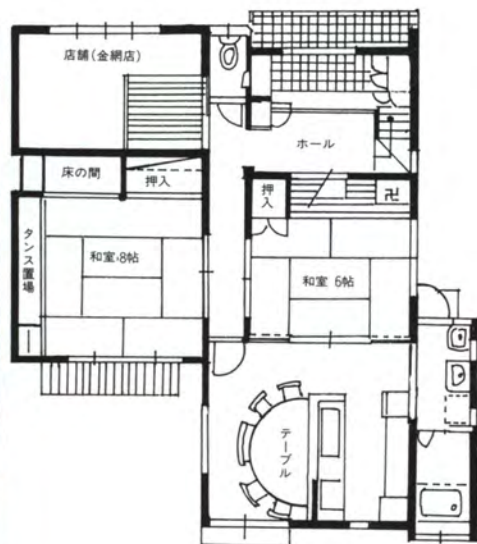
永^{とこ}遠^{しえ}の家

昭和63年度優秀賞

- ・ 建築主／近藤 勝治氏
- ・ 建築場所／静岡市北番町
- ・ 設計／第一建設(株)静岡 1 級建築士事務所（静岡市中原）
- ・ 施工者／第一建設(株)（富士市永田）
- ・ 規模／木造 2 階建延べ167㎡
- ・ 完成年／昭和63年



台所



1階平面図

浴室

家族をテーマに一人一枚ずつタイルに絵を描き貼ってある。



若い主婦の住まいへの情熱伝わる

◇講評

4世代家族であるが、住まいの中の住み分けにおける、昔ながらの「ふるい」を作って商売する曾祖父と祖母の位置付けに好感を感じる。しかし何といっても家族を思う若い主婦の住まいへの情熱が、住文化を支える原点と感じられる併用住宅である。

◇設計の趣旨

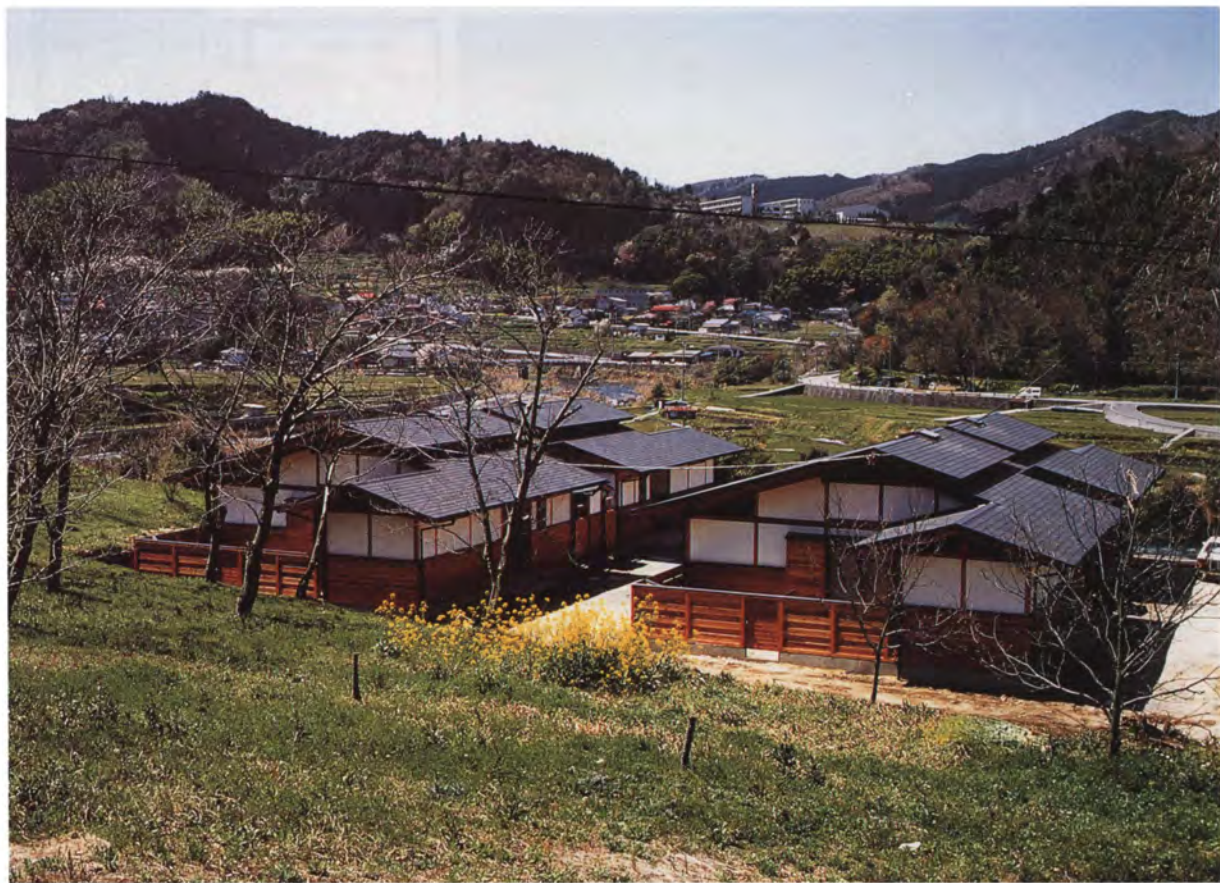
4世代7人家族店舗付き併用住宅。

限られた敷地、厳しい建築条件の中で、いかに住み易くするかに重点を置き間取りを。この家族も数年後には恐らく家族数が半減してしまうと思うが、さらにそのまた数年後には家族が増え、元のにぎやか

さを取り戻すことと思い、それらへ対応できるような要素を備えた。

1階は台所を中心に家族が集まる場でもあり、少々ぜいたくに思われる広い玄関や、家のシンボルの5本の柱も配置。南側は空き地となっているため、台所の日当たりはとても良く、グランドスラブ方式により、木の床でも冬あたたかく過ごせる工夫を施している。

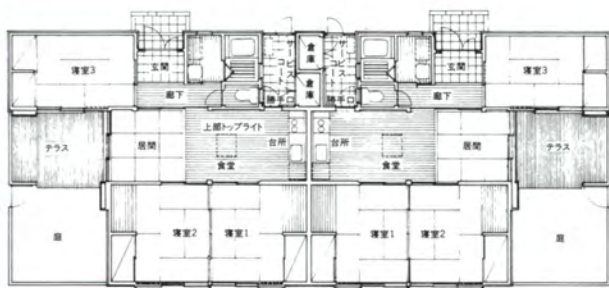
2階はホールを中心にそれぞれの個室へ、また個室からホールへという、要的役割を果たし、ホールの壁には防音材を入れ外からの音にも、また週末の家族揃ってのビデオ映画を楽しむ折りの防音にも対処。寝室も隅に和室を設けることによりやすらぎを与えるよう配慮している。



天城型公営住宅

昭和63年度優秀賞

- ・ 建築主／天城湯ヶ島町長
- ・ 建築場所／田方郡天城湯ヶ島町田沢
- ・ 設計／大川伊都美建築アトリエ（田方郡天城湯ヶ島町田沢）
- ・ 施工者／天城建設共同企業体
- ・ 規模／木造平屋285㎡
- ・ 完成年／昭和62年



平面図

完成度の高いディテール、デザイン

◇講評

地域の特性を生かした公営住宅のパイロットプランとして、完成度の高いディテール、デザインとともに評価できる。

◇設計の趣旨

伝統的な“田の字”型による在来工法のフレームの中に必要に応じて部屋や諸機能を外気に接するように配置し“田の字”の交点には、地元材の大黒柱を設置。

屋根は、町長のアドバイスにより濃い緑色のコロニアルで葺き、真ん中を一部カットし、倉庫部分を切妻にすることで、各住戸の独立性を明確化。屋根の重なりは、天城の山並みを連想させ周囲の環境にも抵抗なく溶け込んでいる。

外壁も、木の素材を生かし、腰までを地場産の杉下見板張りとし、上部を白壁に。インテリアもまた、木を生かした柱、梁のほか、天井や床、壁の一部には杉や桧の緑甲板を張り、玄関を入るとほのかな木の香を漂わせている。



小林邸

昭和63年度優秀賞

- ・ 建築主／小林 春雄氏
- ・ 建築場所／静岡市用宗
- ・ 設計／小林建築計画工房（静岡市用宗）
- ・ 施工者／古池工務店（静岡市北番町）
- ・ 規模／鉄筋コンクリート造・木造2階建延べ159㎡
- ・ 完成年／昭和59年



玄関から居間方向



2階吹抜部



1階平面図

家族のコミュニケーションに配慮

◇講評

階段・吹抜・トップライトを中心にした内部空間のサーキュレートする融合に、家族のコミュニケーションに対する配慮がうかがえる。昭和初期に建てられた建築との共生も良い。

◇設計の趣旨

3世代同居で、住宅とアトリエを同一敷地内へ配置。

住宅を道路より奥まって配置することによって、路地庭、中庭、奥庭、サービスヤードを設け、機能

的で潤いのある、庭と住まいの関係を考慮。内部は、仕切りを少なくし内部窓や引き込み戸を多用し、1階では迂回できるよう臨機応変に動線に対応させている。

光や通風は、トップライトから十分に採り入れ、吹抜、階段を通して下階の各部屋に導入され、この空間は内部の路地となって立体的に開かれている。

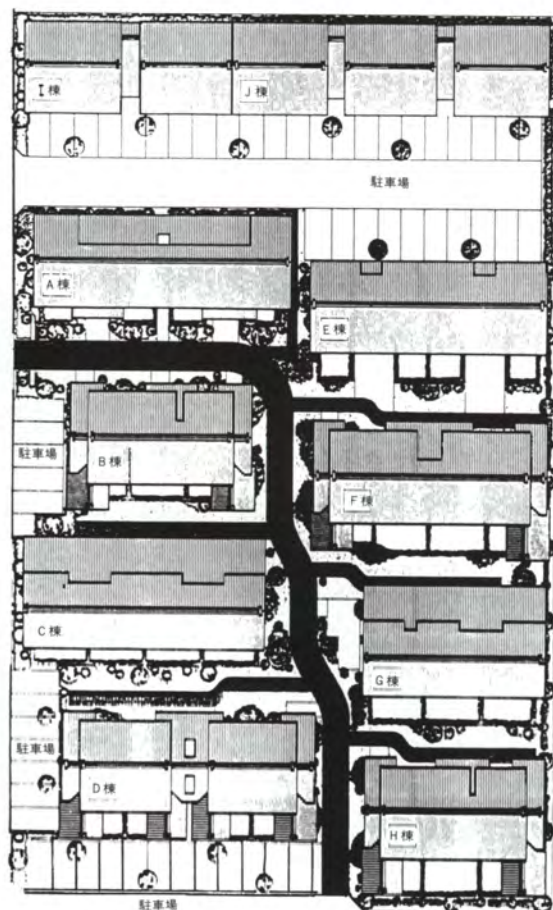
建物内外部の仕上げはコンクリート、木、鉄、紙、コルクの素材を使い、経年変化とともに味わいが出るよう設計している。



たつきウツドタウン

昭和63年度優秀賞

- ・ 建築主／牧野 平四郎氏（静岡市新富町）
- ・ 建築場所／静岡市辰起町
- ・ 設計／(株)前林建築事務所（静岡市相生町）
- ・ 施工者／(株)池工務店（静岡市竜南）
- ・ 規模／木造 2 階建総延べ2,973㎡
- ・ 完成年／昭和62年



施設配置図

庶民的な地域生活環境作り出す

◇講評

変化をもたせたバリエーションと技術的な工夫により、庶民的で馴染みのある地域生活環境を作り出すことに成功している。

◇設計の趣旨

青い畳・木の柱や梁あるいは漆喰の臭いといった、自然の素材が建物の中で息をしているよう配慮。

自然素材の効用は、目には見えないが、湿度のコントロールをはじめ光や音の適度な吸収など、微妙

で重要なポイントである。

一方、主な入り口をドアでなく引き戸にし、風の調節のしやすい家に。これにより夏には深い軒の出とともに、通風により涼しい時を、冬には隣の棟との十分な間隔が日照を確保。

また、車を外周に置くとともに電線を地中化し、家の回りをすっきりと静かに。

さらに隣との隔壁を二重構造とし、戸建感覚を持たせている。

曾根田邸

昭和63年度優秀賞



- ・ 建築主／曾根田 栄男氏
- ・ 建築場所／静岡市鷹匠
- ・ 設計／(株)ナカノ工房（静岡市安東）
- ・ 施工者／第一建設(株)（静岡市清閑町）
- ・ 規模／鉄筋コンクリート造 4 階建延べ193m²
- ・ 完成年／昭和62年



狭さ感じさせぬ内部空間

◇講評

敷地が非常に限定された市街地に、狭さを感じさせぬ内部空間を、構造的な難もなくまとめあげている。外観も、デザインの密度を感じさせる。

◇設計の趣旨

商業地域にありがちな間口2.5間、奥行8間の20坪の細長い敷地は、周辺の住宅・アパート・商店の老朽化が始まり、建替時期に入ってきた商店街の裏通りといった、雑然とした雰囲気の中にある。

敷地間口が狭いので有効スペース確保のため堅式

構造で2枚の壁をたて、狭い前面道路の斜線制限をなるべくかわすため、階高を低く押さえられるボイドスラブを採用するといったギリギリの与条件により計画は始まった。階段を建物中央にとり、その両側に部屋を振り分けるといった平面構成は、細長い敷地のため必然であった。

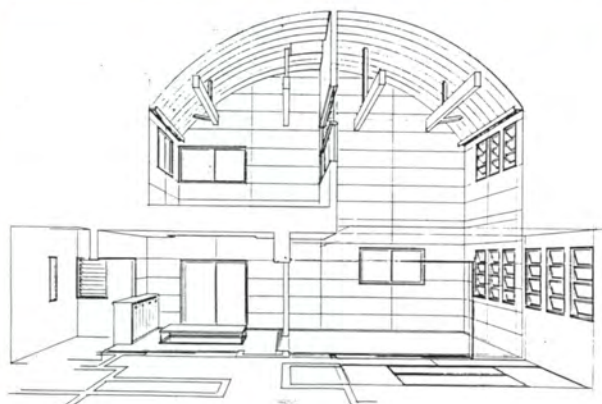
これらハードな条件の中で、いかに住まいの快適性を提案できるかがこの4階建の住宅のテーマであった。築後一年（注・昭和63年当時）を経た今、こみいった敷地条件の割に通風・採光とも施主は満足しているようである。



モナリザ de たきい

昭和63年度優秀賞

- ・ 建築主／瀧井 繁和氏
- ・ 建築場所／静岡市高松
- ・ 設計／栗田仁建築設計室（静岡市北）
- ・ 施工者／イセキ工務店（静岡市大岩町）
- ・ 住環境関係者／無限堂（静岡市八幡）
- ・ 規模／木造2階建延べ129㎡
- ・ 完成年／昭和62年



生活様式を表わす広い内部空間

◇講 評

条件の余り良くない立地をのりこえて、子供たちが楽しく育ちそうな、また社会へ向けて開けた生活様式を感じとれる広々とした内部空間を作り出している。3年もかけて考え抜いた建て主の情熱のたまものである。

◇設計の趣旨

静岡ならではの、駿河湾と富士山が眺められる家。夫は中学校の教師で妻は子供の本研究家のため、来客が多い。そこで1階全て開け放つと30畳以上の大広間が出現するよう設計。

1980年から3年間、夫婦と子供2人は一家でパナマ共和国で生活した。その思い出を住居の一部にモ

ザイクタイルなどで表現。

南側は、交通量の多い、国道150号に面しているため、通行人からの目隠しと、明かり採りの目的で、オーニングサッシを多用した。

多目的ホールは天井をアーチ型にし、大きな容積を求めた。これにより、ミニ音楽会を開いたり、教え子たちが集まり宿泊したりと、自由自在。

門柱は、子供の本の研究家らしく、単行本を型どり、モザイクタイルでモナリザをデザインした。

数学の教師であるため、2階から多目的ホールの手摺りには、3平方の定理をさりげなくデザイン。

図書室は本箱部分と階段部分の間をミニ劇場となるよう工夫。老後に文庫を開く予定ということである。



椎木邸

昭和63年度優秀賞

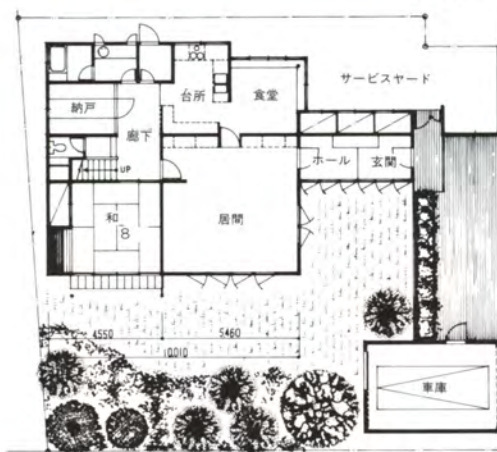
- ・ 建築主／椎木 泰行氏
- ・ 建築場所／磐田市見付
- ・ 設計／(株)賛同人建築研究所（浜松市南浅田）
- ・ 施工者／小林建設(株)（磐田市見付）
- ・ 規模／木造2階建延べ160㎡
- ・ 完成年／昭和50年



玄関



南外観



1階平面図

◆講 評

内部空間と、外部の地域空間との連携と、写真家の建て主の作風を変えたという、家屋内への光の採り入れに工夫の跡がうかがえる。

◆設計の趣旨

落ち着きとやすらぎを与えること、美しい光を演出すること、やわらかな緑を取り入れること、さらに、こちち良いまちの景色として人々に受け入れられる建物にすることなどが、設計のテーマとなった。

建物は、やわらかな、ほど良い光の入る空間、内と外との中間領域にある空間、あまり広くないが塀に囲まれた落ち着きのある緑豊かな外部空間によって構成。

玄関ドアは道路に直接面しているが、外観は外部と一線を画した表情をしている。奥行が深く細長い玄関内部は、南の坪庭に面して、外と内の中間にあって両者を分け、かつ、自然につなぐ重要な役割をはたしている。

道路と平行に取られた前庭は、車庫から玄関へのアプローチ空間であると同時に、椎木邸と、まちとをつなぐ接点であり、家主とまちの人々との共有空間となっている。

つまり、この建物の空間構成は、それぞれの独立性を保ちつつ、中間領域の空間によって、それぞれを有機的につないでいるのが特長である。そして、内と外とが一体になって成立している建物である。



H

邸

平成元年度優秀賞

- ・建築主／H・S氏
- ・建築場所／浜松市鴨江
- ・設計者／(株)大杉建築設計事務所（浜松市広沢）
- ・施工者／(株)林工組（浜松市渡瀬町）
- ・規模／鉄筋コンクリート1部鉄骨造2階建延べ337㎡
- ・完成年／昭和58年



玄関アプローチ



ダイニングルームより和室を見る



吹抜けとステンドグラスを見る

落ち着いた仕上りに居住者の創造意欲

◇講 評

与えられた豊かな敷地条件（形状と広さ）を活かした接客空間の構成に努めている。また、屋根および外壁の仕上げ材に対する居住者の嗜好がもたらした、全体の落ち着いた仕上がりなどに居住者の創造意欲が認められる。

◇設計の趣旨

施工前の地形も起伏のある崖地であり、既存の樹

木が数多く点在、前地主の時に小さな住宅があり、そこに平坦な部分があった。施主からの希望は、既存の環境をなるべく残す形で設計することであり、その結果、樹木に覆われた借景が生み出された。

玄関吹抜部分には、一部透明ガラスを使用したステンドグラスを配し、ステンドグラス越しに樹木が動く様子を重ねて眺める、動くステンドグラスとして工夫した。



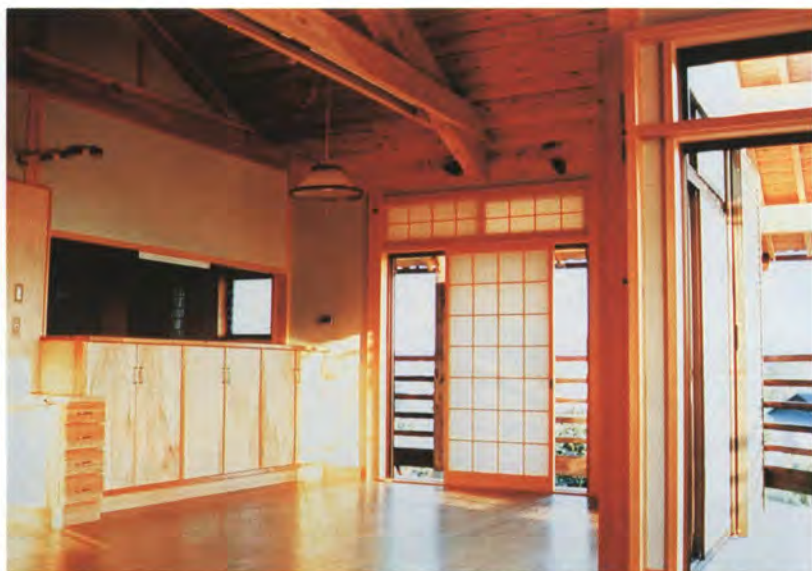
H 邸

平成元年度優秀賞

- ・ 建築主／H・M氏
- ・ 建築場所／浜北市寺島
- ・ 設計者／中谷悟設計工房（天竜市山東）
- ・ 施工者／水窪産直住宅組合（磐田郡水窪町奥領家）
- ・ 規模／木造2階建延べ187㎡
- ・ 完成年／平成元年



リビングの吹抜



リビングからダイニングを見る



1階平面図



2階平面図

2階を公室、1階を私室は1つの提案

◆講評

居間、食事室などの公室を2階に、主寝室、子供部屋などの私室を一階に配したのは一つの提案である。居住者の主張に基づいた自然木をふんだんに使った公室内部は、のびのびとした空間を作り出すことに成功している。

◆設計の趣旨

家族が揃って語り合う場としてのリビングルームを明るく暖かい部室とし、しかも北側の敷地への日の光をなるべく遮らないようにするため、建物を敷地に対して45度とした。これにより日照の得られ

る外壁線は長くなり、どの居室も日照を取り入れられ、室内を明るくすることができた。さらに、南側の敷地に総2階の建物が建った今でも、軸線のずれによって建物と建物の間を眺めることとなり、視線の上でも圧迫感をなくしている。

屋根は、自身の影をできるだけ小さくするため寄棟とした。

2階のリビングは吹抜とし、杉材による構造材をそのまま表し、天井も杉板張り、廊下も手に触れる部分は杉板張りとして、木のぬくもりを感じる温かみのある空間としている。



HILL SIDE－SUN HOME

●—————平成元年度優秀賞

- ・ 建築主／池田 智氏
- ・ 建築場所／天竜市熊
- ・ 設計者／(株)土屋建設（浜松市入野町）
- ・ 施工者／(株)土屋建設（浜松市入野町）
- ・ 規模／木造2階建延べ186㎡
- ・ 完成年／平成元年



立地を活かした借景で快適な住空間

◇講 評

不利な敷地の形状を巧みに処理しながら、立地を活かした借景で、快適な住空間を作り出している。内部の空間構成も、間仕切りの使い方によって、多様な生活空間のつながりを可能にしている。子供部屋のあり方についても一つの提案となっている。

◇設計の趣旨

和室をメインにした部屋構成と、洋風な外観との調和を図り、アウトドアリビングを設けるなど、小さなリゾートとしての機能を持たせた。

また、周囲の景観が建物から自然な形で見えるようにし、建物の外観および外構は、一歩進んだ形で地域に溶け込める住宅にした。



ザ・トライアングル

平成元年度優秀賞

- ・ 建築主／K・K氏
- ・ 建築場所／静岡市北
- ・ 設計者／栗田仁建築設計室（静岡市北）
- ・ 施工者／日栄建設㈱（清水市船原）
- ・ 住環境関係者／無限堂（静岡市八幡）
- ・ 規模／木造2階建延べ114㎡
- ・ 完成年／昭和63年



広間



広間

(写真提供・フェリカ)

必要最小限住宅への提案

◇講 評

狭い形状敷地をプランニングで巧みに処理することによって、豊かな生活空間構成を実現しつつ、同時に必要最小限住宅の提案となっている。子供部屋のあり方も、決して広くはないスペースを有効に利用することで、楽しい空間となっている。

◇設計の趣旨

直角三角形の敷地。一般に「変形敷地」と呼ばれ、建物の計画がしにくいとされている所に建っている。

ごく普通の矩形の建物をつくることは、敷地の形に逆らうことになる。そこで敷地にならう格好で、三角形の建物とした。

本当に忠実な三角形平面では、鋭角の隅角部にデッド・スペースができてしまうため、平面処理は鋭角部を面取りするような形とし、鋭角はバルコニーと屋根のみにとどめた。

35坪に満たない小住宅だが、内部に意外なほどの大型の空間を内包するようにした。吹抜になった広間、小屋組を整理し屋根勾配なりに天井を張った2階の寝室と子供室。のびのびとし、心底くつろぐ場所になっている。

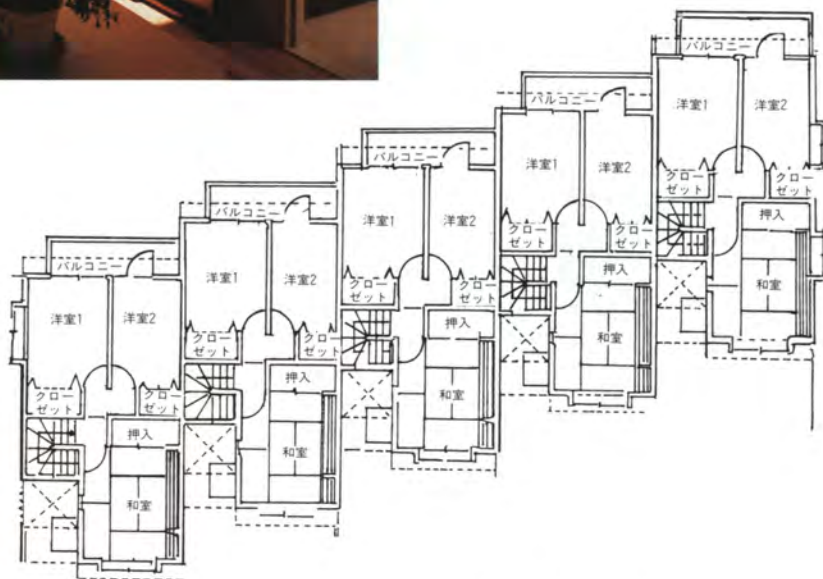
広間の吹抜に面する2階の開放廊下の手摺り壁はステンレスのワイヤーを張り巡らしたシースルーのもので、1階と2階の空間の一体化に寄与している。



タウンハウス和合

平成元年度優秀賞

- ・ 建築場所／浜松市和合町
- ・ 設 計 者／遠州建設㈱（浜松市佐鳴台）
- ・ 施 工 者／遠州建設㈱（浜松市佐鳴台）
- ・ 規 模／鉄筋コンクリート造地下1階地上2階建延べ1,119㎡
- ・ 完 成 年／昭和61年



動線計画に工夫、使い易い生活空間

◇講 評

狭い占有面積でありながら、玄関回りとユーティリティ部分の動線計画や視線の配慮に工夫がなされ、使い易い生活空間を作り出すことに成功している。また工法上、外断熱を採用し、居住性能の向上を図ったことは評価に値する。

◇設計の趣旨

「人と車の共存」、「緑豊かな街づくり」を二大テーマとし開発。緑多い良好なロケーションの中で、5戸連続建1棟・3戸連続建2棟の合計11戸。

鉄筋コンクリート造だが、いままでの既成概念を打破し、外断熱の上に防火サイディング張りを採用、

鉄筋コンクリート造の冷たさや、硬さから、木造のような暖かさ、優しさを求めた。

間取りについては、北側道路面を地下1階として、車庫および納戸を配置。屋外階段で1層上り、1階は家族共用スペースのLD・Kで、居間、食堂そして台所―家事室―洗濯―洗面―浴室と一直線に配し、機能性と合理性を追求。2階はプライベートとして二つの洋間と一つの和室を設けた。

1、2階で79平方メートルで、地下が23平方メートルの合計102平方メートルとコンパクトだが、玄関まわりは、中庭、吹抜を設け、空間に変化とゆとりをもたせている。

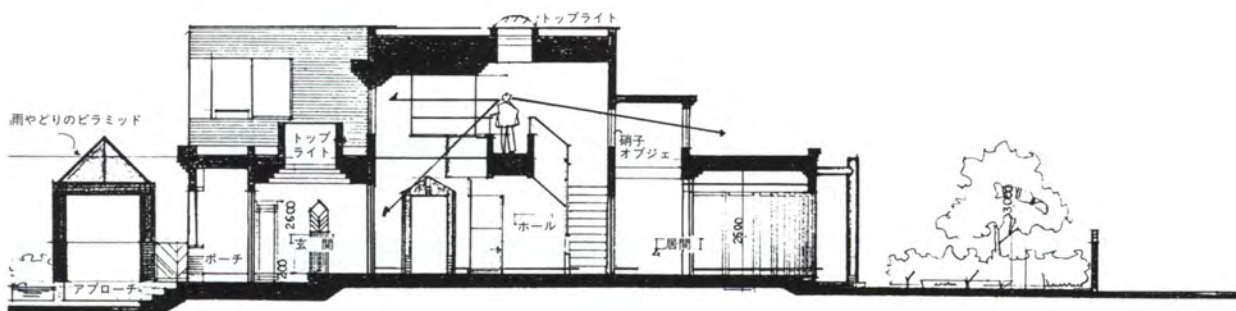


T

邸

平成元年度優秀賞

- ・建築主／T・S氏
- ・建築場所／沼津市上香貫
- ・設計者／(有)山梨一正建築設計事務所（三島市梅名）
- ・施工者／正計建設興業(株)（三島市大宮町）
- ・規模／鉄筋コンクリート造2階建延べ232㎡
- ・完成年／平成元年



断面図



大胆な吹抜で各部屋の結びつき図る

◇講 評

大胆な吹抜によって各部屋の平面的、立面的に空間の結びつきを図った意欲作である。また、それが2世帯住宅を目指しながら、それぞれの領域が閉鎖的に陥るのを防いでおり、新しいタイプの提案となっている。

◇設計の趣旨

数年後には、2世帯住宅となる、この住宅は、全てが中央のギャラリーホールを通る様に動線計画されている。

これは家族のコミュニケーションを図るため、吹抜ホールを中心に、上・下が老若、左右が動静の空

間に計画してある。

台所にいる母親は、出入口間仕切りが透明硝子なので、家族の存在を視覚で感じることができる。基本的にはどの出入口にも必ず硝子を使用しており、共通して使用する部屋は透明硝子、プライベートルームは型硝子となっている。これは各室の使用状況や、家族の存在を知るためである。

また、立地条件により、四季の環境を楽しむ東西南北、3カ所のベランダと1カ所のテラス、そして来客用には雨宿りのピラミッドなど、外観は質素でも考えは心の豊かさを求めた住宅としている。



3 $\frac{1}{2}$ ホールの家

平成2年度最優秀賞

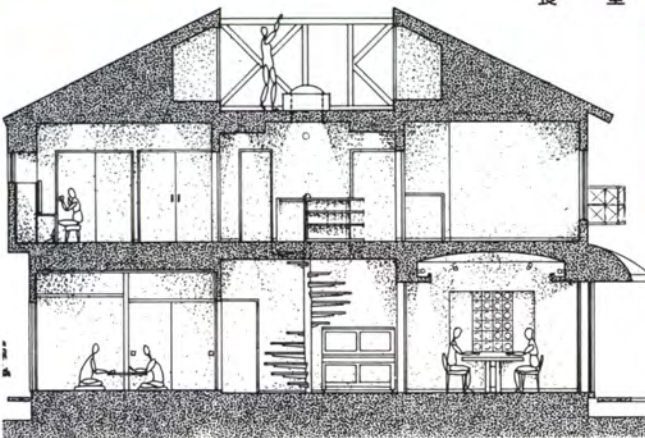
- ・ 建築主／A・I氏
- ・ 建築場所／静岡市清閑町
- ・ 設計者／岸 裕之設計工房（静岡市清閑町）
- ・ 施工者／(株)山内工務店（静岡市清閑町）
- ・ 住環境関係者／飯田庭園設計事務所（静岡市城東町）
- ・ 規模／木造2階建延べ135㎡
- ・ 完成年／平成2年



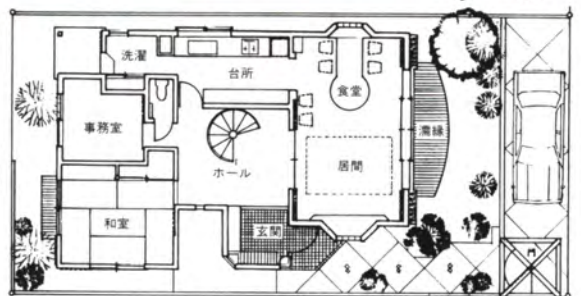
食 堂



ホ ー ル



(撮影・高嶺写真)



配置 1階平面図

確かな造形力ときめ細かなデザイン

◇講 評

確かな造形力ときめ細かなデザインにより、コンパクトながら快適な空間構成と外観をつくりだすことに成功している。特に居間部分は、材質を生かして美しいインテリアを実現している。全体として、住まい手の生活空間と設計者の設計意図がうまくマッチしたデザインで、最優秀としてふさわしい普遍性が認められる。

◇設計の趣旨

「3と1/2ホール」の3つのホールとは、1階ホ

ール、2階ホール、リビング・ダイニングのこと。また「1/2ホール」とは、開放したときの和室、庭とつながる濡れ縁、2階テラスなどのホールの性格を持つものを言い、プライベートルーム以外の部屋はすべてホールである。

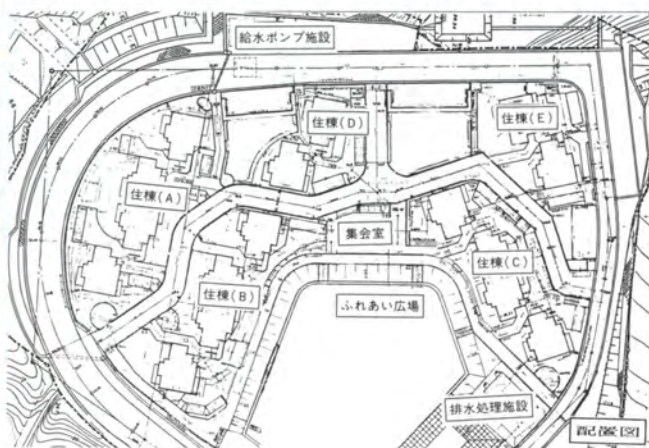
階段は面積をとらないらせん式にし、ホール中央に置きオブジェとした。1階の建具は引き込み式とし、開放時には居間、ホール、和室と続く大空間を構成できるようにした。



菊川町公営住宅 長池団地

平成2年度特別賞

- ・ 建築主／菊川町長
- ・ 建築場所／小笠郡菊川町堀之内
- ・ 設計者／高橋・三浦設計共同企業体（静岡市西千代田）
- ・ 施工者／(株)鈴木組（菊川町朝日） 木内建設(株)（静岡市国吉田）
 明光電気(株)（浜松市北島町） 戸田設備工業(株)（掛川市細谷）
 (株)青野設備工業所（菊川町加茂） (株)北陽（浜松白鳥町）
 (資)石川組（菊川町本所） 石川建設(株)（磐田市今之浦）
 (株)中村組（浜松市住吉） 石川電気工事(株)（浜松市泉）
 (株)東海フォレスト（島田市） (株)田旗造園（掛川市葛川）
 (株)牧野組（菊川町小出町）
- ・ 規模／鉄筋コンクリート 3 階建 3 棟・ 4 階建 2 棟延べ4,127㎡
- ・ 完成年／平成 2 年



明るく健康的で質の高い集合住宅

◇講 評

公営住宅でありながら、隣棟間隔、空地など十分ゆとりのある配置と住棟の形態の変化によって明るく、健康的で質の高い集合住宅を実現している。各住戸へのアクセスの取り方の工夫により、方式としては階段室型でありながら、全く異質な空間をつくりだし、全体の連続性を保ちながら各戸の独立性を感じさせることに成功している。

◇設計の趣旨

同団地を地域の一部を担うものとして位置付けるとともに、地域固有の気候・風土・歴史を考慮し、

周辺との馴染みや連続性を達成することを計画の理念とした。

まず、団地住民の孤立化を防ぐため、コミュニケーションの場となる遊歩道、公園には十分配慮し、地元住民の利用を図った。豊かな景観を生活環境のなかに生かし、ゆとりのある団地設計を行い、また高台の利点を生かして、高低差のある自然にとけ込んだ住宅設計を行った。さらに集合住宅を孤立住宅に近付けるため、地域特性を全体の空間構成の中で生かし、集合形態であっても孤立住宅の構造を各戸の中で実現するよう努めた。



せせらぎと池のある 医院併用住宅

平成2年度優秀賞

- ・ 建築主／(有)藤（代表取締役・斎藤英子氏）
- ・ 建築場所／三島市大場
- ・ 設計者／杉橋建築設計事務所（三島市西若町）
- ・ 施工者／東レ建設㈱三島支店（三島市文教町）
- ・ 規模／鉄骨造3階建延べ395㎡
- ・ 完成年／平成2年



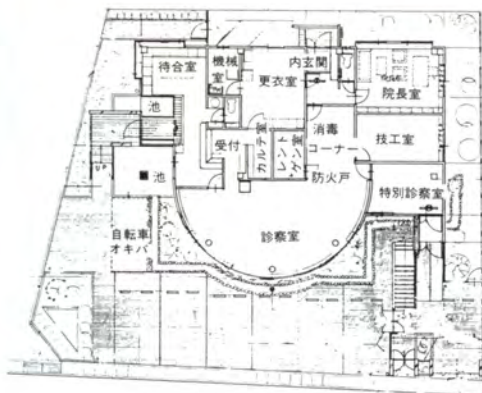
3階和室



待ち合い室内の池



小さなせせらぎ



配置図・1階平面図

住環境に配慮した併用住宅

◇講 評

敷地の周囲に緑地を取り、住環境に配慮した併用住宅である。診療室の半円形は角地に優しさを与え、屋上が幼児の遊び場、戸外での喫茶に使うなど、家族のコミュニケーションの場として利用できるよう考えられている点、納得のいく造形である。また、全体に木材を内装材として使い、うるおいを与えている。

◇設計の趣旨

この敷地は小さな染め物工場の跡地で、函南原生林のしほり水を水脈とする井戸が残されていたため、この水を生かすことをテーマに設計を進めた。

駐車場やアプローチを水と緑の空間とし、半円形に張り出した診察室まわりをめぐる、小さなせせらぎがエントランス脇の池へ注がれるようにした。水には金魚や鯉が遊び、患者さんをはじめ道行く人にも水とのふれあいの場を提供できるようにした。

幸町の町家

● 平成2年度優秀賞



- ・建築主／鈴木 八重子氏
- ・建築場所／静岡市幸町
- ・設計者／小林建築計画工房（静岡市用宗）
- ・施工者／滝 次郎（静岡市中島）
- ・規模／木造2階建延べ108㎡
- ・完成年／平成2年



土間から客間、中庭、廊下方向を見る



食堂から中庭を見る



1階平面図

造形的で密度高い生活空間

◇講 評

市街地における広さ、形状とも非常に限定された敷地に、巧みな計画によって造形的に密度の高い生活空間を実現している。外観も穏やかに個性を主張することに成功している。しかし、内部では設計者の造型の意図が、住まい手の生活姿勢と必ずしもフィットしていないのではないかという、今後の経過の中で解決していくべき課題が感じられた。

◇設計の趣旨

この住宅は限られた空間の中で、より快適に暮ら

し、自然を受け入れ、街に溶け込む都市住宅の可能性をテーマとした。1階は中庭を中心に客間、茶の間などを配し、その中間に廊下、階段をコンパクトにまとめ、それぞれの生活機能に対応させることを意図した。2階も吹抜を中心に寝室、納戸などを配し、プライベートな領域をつくった。

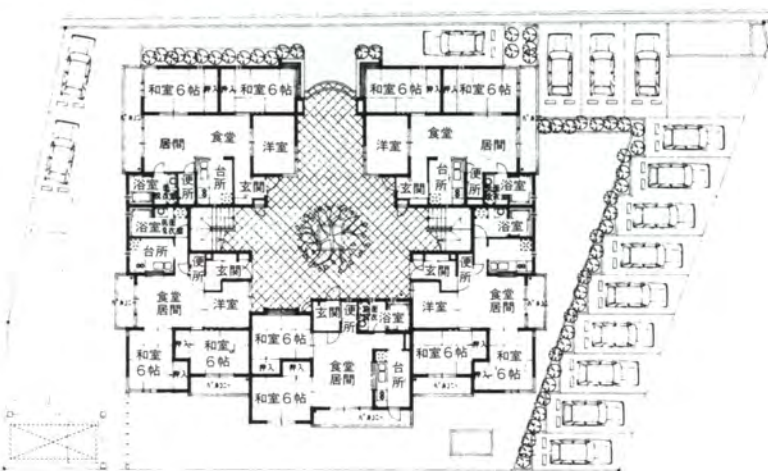
「へ」の字型」に曲がった変形・狭小の敷地、建物の中にも、ポーチ（前庭）、テラス1（中庭）、テラス2（奥庭）、テラス3（屋上庭）を配して、住まい手が生活のなかに四季を感じ、自然とともにあることを意識する場とした。



中原 スカイヤード

平成2年度優秀賞

- ・ 建築主／柴田 文雄氏（横浜市南区）
- ・ 建築場所／静岡市中原
- ・ 設計者／(株)大瀧建築事務所（静岡市馬淵）
- ・ 施工者／(株)佐藤工務店（静岡市八幡）
- ・ 規模／鉄筋コンクリート造3階建延べ1,064㎡
- ・ 完成年／平成元年



コミュニティーを重視した空間構成

◇講 評

コミュニティーとしてまとまりのある空間構成に積極的に取り組んだことは、日当たりを犠牲にした住戸ができてしまったマイナスがあるにもかかわらず評価すべきであろうが、これは賃貸だからこそできた冒険かもしれない。また、総戸数15戸と、さして大きくない共同住宅でありながら、そこに大小取り混ぜて4タイプの住戸を実現したことは、共同住宅にありがちな画一化を避ける努力としても評価することができる。

◇設計の趣旨

とかく共同住宅では、近隣同士のふれあいが欠けがちなため、古くからこの敷地のシンボルとなっていた「もちの木」を中心として、コミュニケーション、出会いの場を設けた。また、室内はカウンター式の台所を中心に、家族の団らんが保てるようリビング、ダイニングを大きく配置するとともに、壁の一部をコンクリート打ち放しにし、居住者のニーズにあった間取りとした。このマンションの各戸は、部屋の3方向が外部に面し、すべて居室に対して、日当たり、部屋の明るさ、風通しなど良好な居住性を保てるよう配慮した。



蒲原町神沢の家

平成2年度優秀賞

- ・ 建築主／久保田 伸祐氏
- ・ 建築場所／庵原郡蒲原町神沢
- ・ 設計者／鈴木建設㈱一級建築士事務所（清水市入船町）
- ・ 施工者／鈴木建設㈱（清水市入船町）
- ・ 規模／鉄筋コンクリート造3階建延べ399㎡
- ・ 完成年／平成2年



3階スタジオ



2階平面図



居間・吹抜け

立地条件を克服し快適な空間

◇講 評

国道1号と東名高速道路に挟まれた、快適性からみればあまり感心できない立地に、いかにして快適な住空間を作り出すかおそらくこの住宅の設計課題であったと考えられる。1階に商店のある併用住宅であるが、商店部分に簡単な居住部分を設けることによって、2階から上の住宅部分を商店部分と関係させながらも、独立したゆとりある生活空間部分として確保することができており、課題は達成できていると見受けられた。

◇設計の趣旨

都市住宅への対応として、遮音、通風・採光、プライバシーといった相反する要素を満たすことをテーマとした。駐車場、店舗などの用途を考慮、住宅の玄関までのアプローチに外階段で2階まで導く方法を取ったものの、それがかえって動線の延長をもたらし、階段と玄関ポーチ部分の重複により、垂直方向への空間の広がりを実現できた。

遮音としては、鉄筋コンクリート造、防音サッシミラーガラスなどで対応、通風・採光には、常識的ではあるが吹抜のデザインを取り入れることにより、玄関ホール、居間、食堂などに天光が差し込む明るい空間を提供できた。



リバーサイドハウス

平成2年度優秀賞

- ・建築主／N・S氏
- ・建築場所／三島市南町
- ・設計者／スタジオ エフ建築設計事務所(東京都品川区)
- ・施工者／㈱鈴木工務店(三島市八反畑)
- ・規模／鉄筋コンクリート造2階建延べ225㎡
- ・完成年／平成2年



(撮影・荒井政夫)

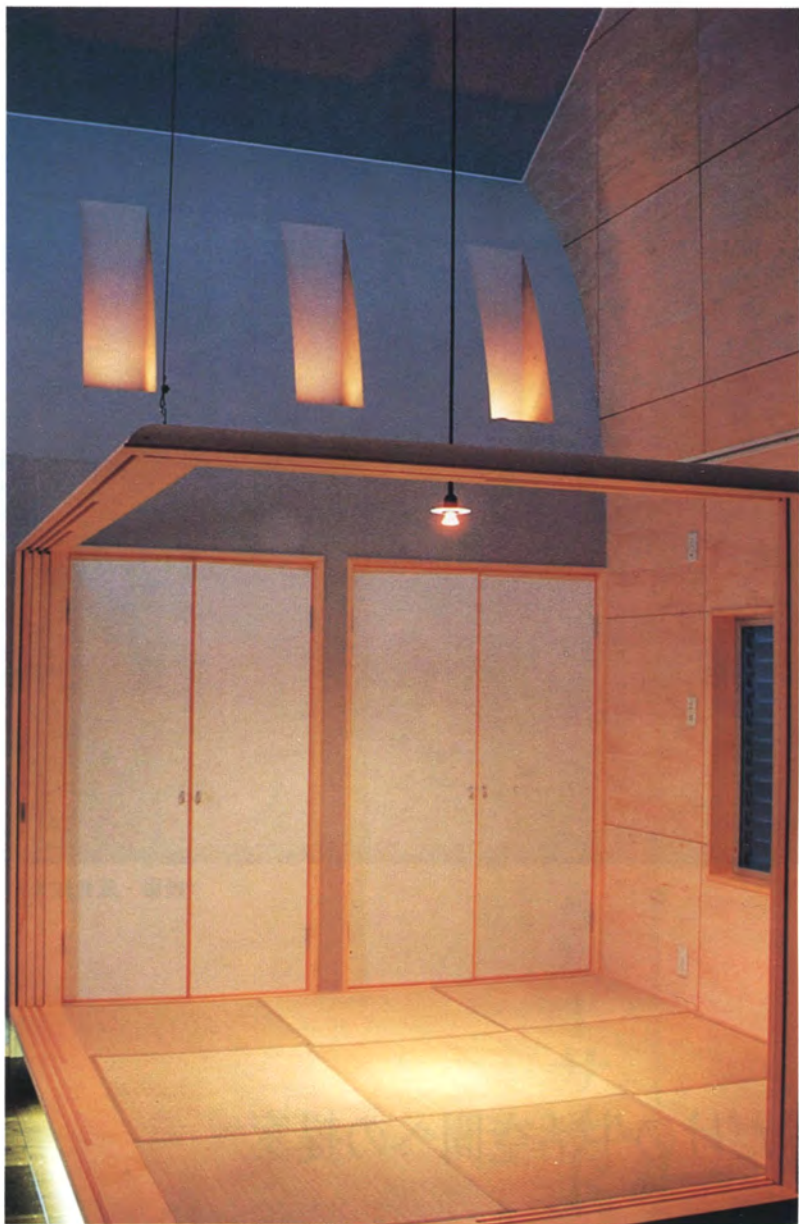
熟年夫婦だけの生活空間への提案

◇講 評

既存建物と巧みに調和を図りながら、変形敷地を有効に使い、周囲との配慮がよくなされている。中央の円形階段は単に象徴的な要素として設けられているのではなく、機能的な要素とうまく調和している。やや一般性を欠くかもしれないが熟年夫婦だけの生活空間の一つの提案として訴えるものが感じられた。また、設計、施工精度など高度のものである。

◇設計の趣旨

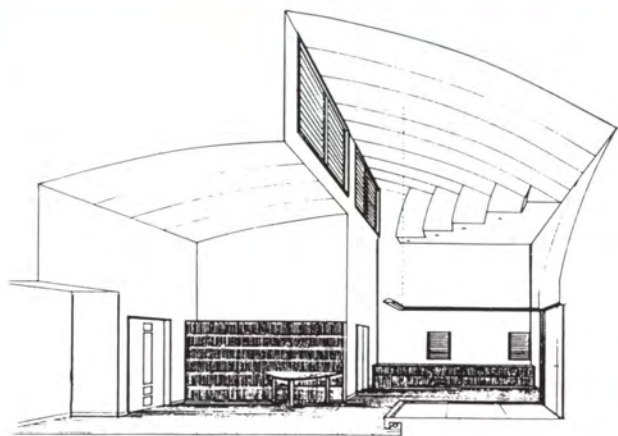
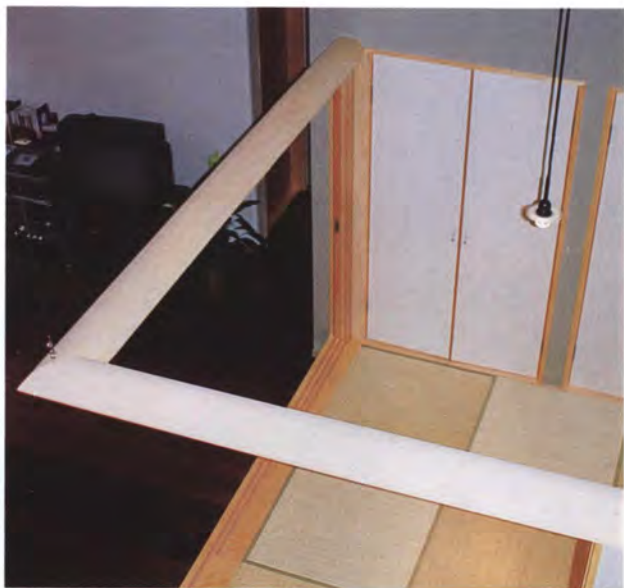
- ・ 熟年夫婦のスイートホーム
- ・ 清らかな流れに囲まれた静かな環境
- ・ 敷地周辺の高低差の克服
- ・ 既存環境への配慮
- ・ 敷地の3方を通行する人々の視線
- ・ 旧家屋の一部を残した増築
- ・ 来客の宿泊と生活の分離
- ・ 中心の明確な分かり易いプラン



ROOM IN THE ATRIUM

● ————— 平成3年度優秀賞

- ・ 建築主／有元 和賢氏
- ・ 建築場所／庵原郡蒲原町蒲原
- ・ 設計者／栗田仁建築設計室（静岡市北）
- ・ 施工者／イセキ工務店（静岡市大岩町）
- ・ 規模／木造2階建延べ179㎡
- ・ 完成年／平成3年



設計の意図どおり住みこなす

◇講評

狭い敷地に大きな容積の空間を実現し、高くて変化のある天井のおかげで広々として楽しげでいて決して遊び過ぎと感じさせない快適な生活空間を実現した併用住宅である。また、それが施主の求めているものであった証拠を示すかのように、設計の意図どおりに住みこなしている様子がうかがえた。

◇設計の趣旨

延べ床面積約54坪のなかに「伸び伸びくつろげるできるだけ大きな容積の空間を！」というのが建主が望んだこの住居のテーマ。最高天井高約6.4mの

アトリウムは、この住居の中心をなす。広さは約27畳大。3間のスパンを跨ぐ曲率半径19mの湾曲した構造用集成材が、大空間を可能にした。

アトリウムのなかに和室が「浮いて」いる。正確には床から軽く「浮いて」いるように見せたい設計上のこだわり。鴨居も宙を飛ぶ。客用寝室の機能を果たす際には2方向から引き込み式の戸襖で仕切ることが出来る。

アトリウムはトップ・サイドライト（頂側窓＝連窓のジャロジー・サッシ3組）からの光に満ち溢れ、風が抜ける。「上空」には“雲”が浮き、大空間にメリハリを付加する。



杉山 純邸

平成3年度優秀賞

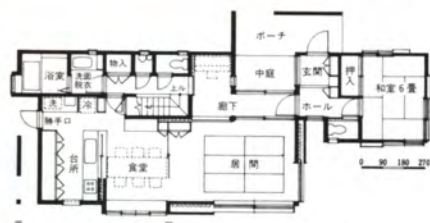
- ・ 建築主／杉山 純氏
- ・ 建築場所／藤枝市築地
- ・ 設計者／建築事務所コオプラン（静岡市音羽町）
- ・ 施工者／榊山崎工務店（静岡市安倍町）
- ・ 規模／木造2階建延べ136㎡
- ・ 完成年／昭和63年



上にも横にも広がりのある居間



食堂



1階平面図

コンパクトながら適度に複雑でのびやか

◇講評

空間構成がバランスがとれ、コンパクトでありながら適度な複雑さと伸びやかさが生活空間としての楽しさ、暮らしやすさを感じさせると同時に、適用されたモデューラーコーディネーションとともに設計の確かを感じさせる。また、できるだけ安価な材料で作ろうとしていることや、建て主の生活空間への愛情を感じさせる住みこなしも好感を呼んだ。

◇設計の趣旨

明るく風通し良く、という希望をかなえた快適な住まい。

郊外に建つ杉山純邸は、周囲に農家が点在すると

いう自然条件に恵まれ、周囲の家と同化しつつ、現代の住まいをさりげなく主張している。

家の中心の18畳のリビングダイニングを、縦横に他のスペースが広がるようにつながるプランにしてある。閉じたり開いたり出来る融通のきく空間である。

2階の書斎は上下でリビングとつながっており、書斎からの音楽を下でも楽しめる。

廊下に面する居間の障子を中央3分の1が上げ下げできるようにすることで、風を通し、またプライバシーを保ちながらも外から家の中や裏庭が透けて見えるので、土地柄に少しでもなじむことが出来ると思われる。

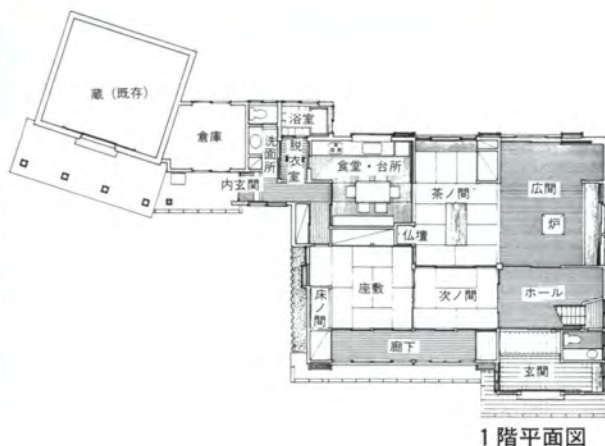


民家再生

小下田の家

平成3年度特別賞

- ・ 建築主／山田 利治氏
- ・ 建築場所／田方郡土肥町小下田
- ・ 設計者／大川伊都美建築アトリエ（田方郡天城湯ヶ島町田沢）
- ・ 施工者／山本 智（田方郡土肥町小下田）
- ・ 規模／木造2階建延べ206㎡
- ・ 完成年／平成2年



保存ではなく再生

◇講 評

明治16年に建てられた民家建築を、保存ではなく、構造や間取りを生かしながら再生した努力が評価された。そしてこの再生に当たって、設計者と施主の間には出会いから完成に至るまでのそれなりの物語があり、ことに当たった大工さんの苦労とともに忘れるわけにはいかないであろう。

◇設計の趣旨

山田邸は、伊豆半島の西海岸、駿河湾に面した、土肥町小下田地区の小高い丘の上に建っていた、典型的な田の字型平面による、ごく普通の民家建築だった。今から105年前に建てられたものだという。

どんな立派な民家建築であっても、残す努力をし

なければそこには何も残らない。ただ住みにくいというだけで、あの黒光りの空間に塗り込められた、この家の文化や伝統を簡単に灰にしてしまうのは、実に残念なことである。

再生計画では、この建物の本屋だけを残し、その外の部分はすべて取り除かれ、改めて必要な下屋廻りを増築することで、この民家の基本的な構造や間取りを再生した。問題は海から吹き抜ける強い風に対して低く抑えられた平屋の建物に、2階を増築することであった。大きな2階は乗せたくない。急勾配の大屋根を本屋の長手方向に、切妻に架けることによって出来る、三角形の小屋裏空間を利用して2階のスペースに当てた。小下田の家は、新しい外皮に包まれて、この地に建ち続けることになった。



曾根

邑志邸

平成3年度優秀賞
さとし

- ・ 建築主／曾根 邑志氏
- ・ 建築場所／榛原郡榛原町細江
- ・ 設計者／神保一級建築士設計室（藤枝市青葉町）
- ・ 施工者／逸見建築（榛原郡榛原町静波）
- ・ 規模／木造 2 階建延べ229m²
- ・ 完成年／平成元年



台所・食堂



玄関ホール



旧建物

建造当時の心をくみ取る

◇講 評

近在の人々が力を合わせて明治40年に建造した記録である普請帳や、吊り束に残された棟梁の署名に示された心を大切に、まだ十分に使い物になる構造物を今日の生活空間の創造に活用した姿勢が評価された。プランもかつての間取りの持ち味を生かしながら、のびのびとした暮らしの実現に成功している。

◇設計の趣旨

この建物は記録によると明治40年に建てられた農家住宅。次第に老朽化し、現代生活と合わなくなり、

不便で暗くて寒い家になってしまった。

こういう場合、多くの人は建物を取り壊し今風の住宅を建てようとする。

しかし、それをしなかったのは施主が単に古いものを大切にするというばかりでなく、もっと深い「文化」というものに対する信念のようなものをもって、それがこの建物を現代に生き返らせ、いわゆるモダンな建築よりも遙かに人間らしい環境としての「住まい」になったのではないだろうか。

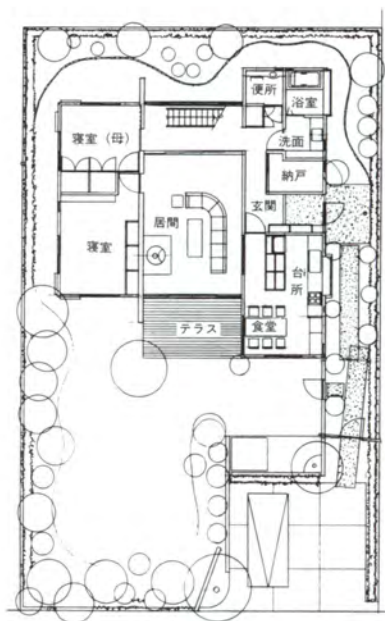
また、地味でこつこつとやり遂げた大工さんや職人さんたちの技術力と心意気にも頭の下がる思いだ。



大富の家

●
平成3年度優秀賞

- ・ 建築主／岩崎 秀子氏
- ・ 建築場所／焼津市中新田
- ・ 設計者／岩崎 守（焼津市中新田）
- ・ 施工者／村松工業㈱（焼津市駅北）
- ・ 規模／木造2階建延べ164㎡
- ・ 完成年／平成3年



1 階平面図



材料の組み合わせに新鮮さ

◇講 評

コンクリートと木という材料の組み合わせに新鮮味を感じさせながら、広々として開放的な空間を作り出すことに成功している。視線を考慮したアプローチ部分外構の空間構成に対する処理の仕方もうまく行っている。

◇設計の趣旨

人間が今日忘れていたことは、自然（光、風、空気）との係わりの少なさである。

この住宅の設計では、居間を中心とし、2階廊下までの吹抜空間を造り、外部への開放感を強め、自然との係わりを深く求められるようにし、家の中で光、風、空気の流れを感じられるようにした。

核家族化により、家族の結び付きが弱くなっていく傾向にあるが、家族の集まりの場である居間と各室とのつながりを密接にし、居間にいて家族の気配が感じられるようにし、家族の結び付きをより密接にした。



東 あずま

邸

平成3年度優秀賞

- ・ 建築主／東 賞平氏
- ・ 建築場所／沼津市下香貫
- ・ 設計者／山口建築設計事務所(株) (沼津市御幸町)
- ・ 施工者／(株)加藤工務店 (沼津市大諏訪)
- ・ 規模／木造1部鉄筋コンクリート造2階建延べ226㎡
- ・ 完成年／昭和60年



熟年夫婦の悠々とした住まい

◇講評

特徴ある施設として設けられたヘルスルームとともに、熟年夫婦の悠々とした住まいを感じさせる。また、それを求めた施主の願いを余すところなく表現した設計者の力量も評価しなければならないであろう。

◇設計の趣旨

沼津市下香貫の住宅地に囲まれた環境の中に、実年夫婦の住まいとして計画された。

訪問客が多いため玄関を広くとり、居間に大きな

掘ごたつを造り、仏間、台所、衣装室と動線を考慮し、2階は寝室と夫婦別々の衣装室を配し、また健康と美容のためヘルスルームと浴室を広めにとり、スチームバス、気泡バスなどを重視した。

外観は倉のイメージをいれ、屋根は平板瓦、外壁中空セメント板、フッ素樹脂塗装とし、シャープさを考え、車庫、浴室など水回りをRC造とし、他は木造の居住性を考慮に入れた建物。

また、外構も外に対しての植え込みも考え、塀も建物と同色にし、笠木にミカゲ石を使用し、表札、門などまでデザインに入れた住宅である。



星野邸

平成3年度優秀賞

- ・建築主／星野 知之氏
- ・建築場所／浜松市有玉西町
- ・設計者／(株)賛同人建築研究所（浜松市南浅田）
- ・施工者／大協建設(株)（浜松市砂山町）
- ・規模／木造2階建延べ187㎡
- ・完成年／昭和58年



住み方と空間がマッチし心地よい

◇講 評

何のてらいもなく、施主の住み易いように設計され、また施主も一生懸命その住まいを可愛がって暮らしてきた様子がありありとしている。住み手の人柄が滲み出ていて、住み方と空間がマッチしている心地よい住宅であることが評価された。

◇設計の趣旨

星野さんの一家は、自然が大好きな家族だ。庭にはいつも花が咲いている。野山や川遊びをするのも大好きな家族だ。芸術一家でもある。

この家族にふさわしい器として「自然と対話する

家」を基本テーマに置いた。

敷地の真ん中に居間があり、居間を中心にして左右に和室とアトリエを配し、それぞれが和風庭園と開放的な芝生の庭を持っている。道路からのアプローチと温室を兼ねた玄関内部までの一連の空間は、これも一つの庭である。2階の子供部屋の南には、大屋根を掘り込んだベランダがある。子供達の遊び場になり、物干し場になり、外に向かって咲きこぼれる花壇の役割も兼ねてきた。

星野邸はこのように、敷地の南半分を庭にするのではなく、外部空間と内部空間がのりあわせた折衷的な空間を敷地の随所に設けた。



●—————平成3年度優秀賞

The Patio 1909

- ・ 建築主／(株)いなとり荘
- ・ 建築場所／賀茂郡東伊豆町稲取
- ・ 設計者／(株)石井建築事務所（熱海市水口町）
- ・ 施工者／山崎建設(株)（賀茂郡東伊豆町稲取）
- ・ 規模／鉄筋コンクリート地下2階地上3階建延べ809㎡
- ・ 完成年／平成3年



2LDKリビング

社員寮のイメージ刷新

◆講 評

従来の社員寮にありがちなイメージを刷新する豊かな住環境の建設に向けた施主の企業姿勢に好感がもてる。また、それに応えようとした設計者の努力も評価に値する。独身世帯と結婚世帯の住戸の組み合わせ、地域への開放の可能性も秘めたバーベキューテラスやブレイルームといった公共空間の配置など、共同住宅としての質の高さが評価される。

◆設計の趣旨

緑に囲まれ、稲取の海が一望できるこの地に、パ

ティオ（中庭）のある内外部コンクリート打ち放しのモダンな感覚の社員寮を創りたかった。そこに住むことがステイタスになるようなシンボリックで、それでいて、アットホームな建物を目指した。

この社員寮は、ただ単に寝泊りすることだけを目的とした施設ではなく、居住者が集いコミュニケーションする憩いの生活空間であり、パティオに面して屋根付きのバーベキューテラスや、エントランスまわりには談話室が配されている。

家庭用、独身用タイプの開放的、かつゆとりを持った部屋からは海が一望できる。

＜編集についてのおことわり＞

- 1 編集にあたっては、建築主、設計者、施工者の皆様に氏名等の表記に関する問い合わせを行いました。その回答に基づき、氏名の公表を望まない方につきましては、氏名はイニシャル表記といたしました。
- 2 氏名のイニシャル表記をする場合は、英語式ではなく、名字のイニシャルを先に、また名前（例：静岡太郎→S.T）のイニシャルをその後にしてあります。（例：静岡太郎→S.T）
- 3 会社の所在地等はすべて町丁字名まで記載することで統一いたしました。
- 4 講評は、各年度における審査委員会の意見を集約した審査委員長報告に基づくものです。
- 5 設計趣旨は、㈱建通新聞社の協力を得て、応募者が提出したものをもとに同社が入賞作品を紹介する記事を書いた際に要約したものを使用しています。

静岡県住宅振興協議会会員

＜正会員＞

- ・(社)静岡県建築士事務所協会
- ・(社)静岡県建築士会
- ・(株)建通新聞社
- ・(社)静岡県建設業協会
- ・(社)静岡県都市開発協会
- ・(社)静岡県設備協会
- ・静岡県行政書士会
- ・(社)プレバ建築協会中部支部静岡分会
- ・(社)静岡県宅地建物取引業協会
- ・静岡県設備設計事務所協会
- ・(社)静岡県造園緑化協会
- ・(社)静岡県浄化槽協会
- ・静岡県木材協同組合連合会
- ・静岡県中部建設業協同組合
- ・(社)日本木造住宅産業協会静岡県支部
- ・全建総連静岡県建設労働組合
- ・静岡県森林組合連合会

- ・(社)新日本建築家協会東海支部静岡部会
- ・静岡県白アリ対策協会
- ・静岡県外壁補修工事業協同組合
- ・(社)全日本不動産協会静岡県本部

＜特別会員＞

- ・静岡県
- ・静岡県企業局
- ・静岡県住宅供給公社
- ・静岡市
- ・浜松市
- ・沼津市
- ・清水市
- ・富士市

＜賛助会員＞

44会員

平成4年3月1日現在

静岡県住まいの文化賞入賞作品集

＜静岡県の住宅＞

編集 平成4年3月

発行 平成4年5月

発行者 静岡県住宅振興協議会
静岡県静岡市追手町9番6号
静岡県都市住宅部住宅課内

編集協力 株式会社 建通新聞社
静岡市豊田一丁目9番34号

